

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病害虫発生予察情報について

平成24年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成24年度農作物病害虫発生予報第8号

平成24年8月31日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が13.8%, 株当たり寄生虫数が0.02頭であり, 平年(0.4%, 0.00頭)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 8月5半旬までの時点において, 予察灯への誘殺を認めていない。
- (3) 8月24日発表の1ヶ月予報では, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量と日照時間は平年並と予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が17.2%で平年(31.1%)に比べてやや低めであるが, 被害葉率が1.2%で平年(0.7%)並の発生である。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量と日照時間は平年並と予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が100%, 発病葉率が15.1%であり, 平年(65.2%, 8.1%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量と日照時間は平年並と予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が7.0%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月上旬～中旬における勝浦町の予察灯への誘殺数はツヤアオカメムシが平年よりやや多め, 上板町ではチャバネアオカメムシが平年より並～やや多めで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦 田丁					上板 田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年
8.1	127	9	29	45	53	1	0	14	1	6
8.2	280	9	12	70	67	6	2	8	1	7
8.3	262	10	26	71	63	6	0	9	1	6
8.4		9	56	79	47	11	0	14	2	13
8.5		13	19	28	29	4	2	1	2	4
8.6		15	18	48	62	2	10	22	7	10

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦 田丁					上板 田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年
8.1	77	7	84	66	73	94	2	33	11	29
8.2	71	4	27	178	84	21	1	12	16	25
8.3	174	27	57	85	124	10	8	18	10	20
8.4		20	220	94	130	8	9	23	7	18
8.5		20	89	53	74	16	21	7	5	19
8.6		21	45	108	120	2	24	27	10	18

- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%, 発病葉率は13.9%であり、平年(55.8%, 7.1%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高

く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が88.9%で平年(43.1%)と比べてやや高めであるが、寄生葉率が3.1%、被害果率が3.7%であり、平年(4.3%、4.2%)並の発生である。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が33.3%、寄生新梢率が1.2%)。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの
で、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%で平年(41.0%)と比べてやや高めであるが、寄生葉率が2.6%であり、平年(4.9%)と比べてやや低めの発生である。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、
防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期発生圃場率が25.0%、50株当たり虫数が0.3頭)。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず、確実に処分する。

(2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

- (3)ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4)フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%, 葉の被害度が1.3であり、平年(21.7%, 0.3)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%, 葉の被害度が21.4であり、平年(91.3%, 21.4)並の発生である。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並で推移している。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年よりやや少なめで推移している。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査5圃場の平均)は平年並～やや多めで推移している。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

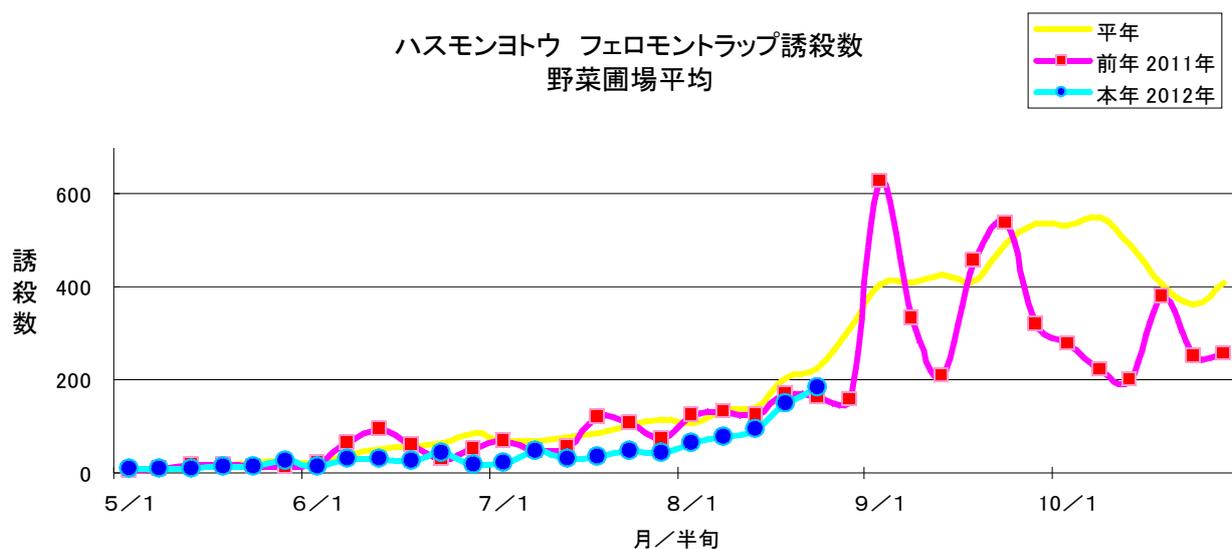
3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行なう。

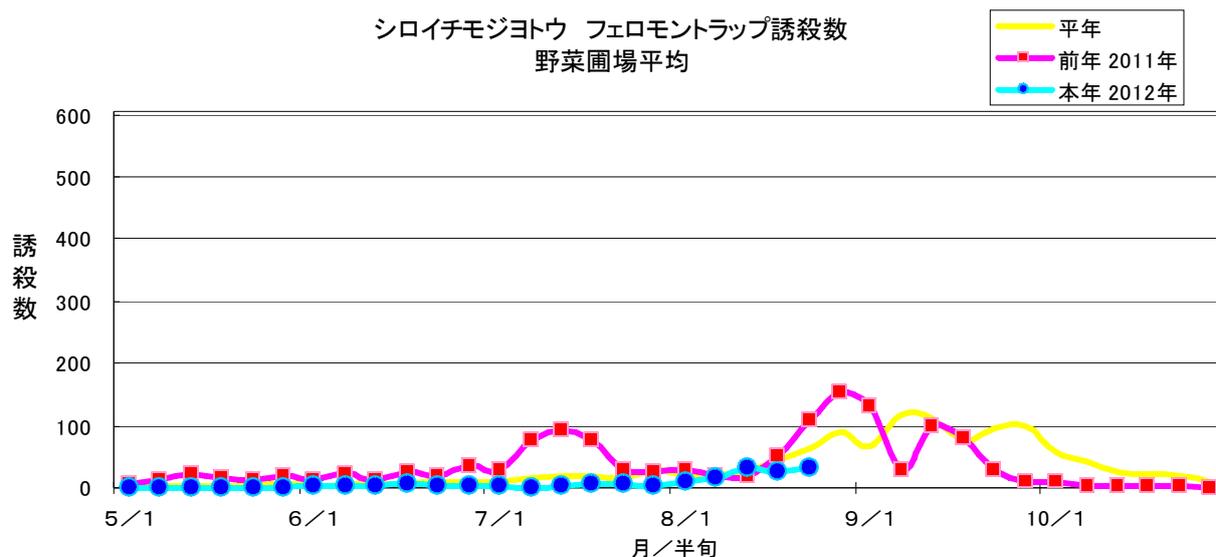
[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

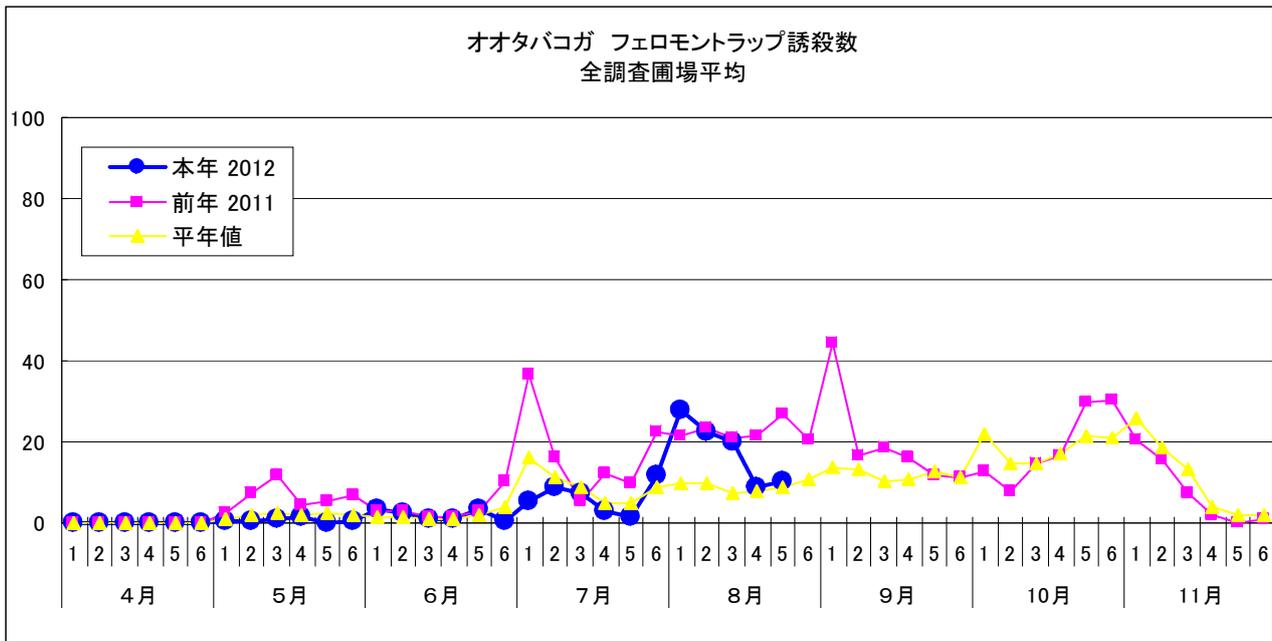
月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年
8.1	65	123	95	67	107	9	27	19	50	18
8.2	77	131	123	77	139	16	19	46	56	25
8.3	96	126	176	70	150	31	18	59	28	27
8.4	148	172	175	119	214	25	51	62	35	42
8.5	184	162	226	234	251	31	109	74	88	70
8.6		160	315	281	342		154	93	79	88



調査圃場：徳島市(川内, 不動), 石井町, 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島), 東みよし町(三加茂)



調査圃場：徳島市(川内, 不動), 石井町, 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島), 東みよし町(三加茂)



調査圃場：石井町, 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島), 東みよし町(三加茂)

IV. その他

- 1) 防除にあたっては, 圃場をよく観察し, 適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。